

ID ^{注1)}	241105	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	紙・電子	保管場所 ^{注1)}		前回ID	231105
-------------------	--------	----------------------	---	---------------------	------	---------------------	--	------	--------

報告書名称 /調査名称	令和5年度白神山地における中・大型哺乳類調査等業務報告書				発行年月/報告年月			
					2024年	11月		
					資料形式 ^{注2)}	報告書		
調査機関	環境省東北地方環境事務所			委託機関	株式会社CTIリード			
調査開始年	2013年	9月	調査期間	2023年	4月	～	2023年	11月
調査頻度 ^{注2)}	毎年		調査時期 ^{注2)}	春 夏 秋				
モニタリング計画	2022年7月 改定		区分 ^{注2)}	ⅡB	大区分 ^{注2)}	2	小区分 ^{注2)}	(1) (3)
調査箇所・範囲 ^{注3)}				調査手法				
☒ 核心地域 ☒ 緩衝地域 ☒ 周辺地域 ☒ GPS等の位置データあり				<p>◆目的 本業務では、遺産地域及びその周辺地域における中・大型哺乳類相のモニタリング調査を実施することを目的としている。また、近年生息域が拡大し、森林生態系への影響が懸念されるニホンジカやイノシシ、及び外来種（アライグマ等）の侵入状況把握にも努めた。</p> <p>◆センサーカメラ設置箇所 ・核心地域内：9箇所、緩衝地域内：1箇所、周辺地域：5箇所合計15台（津軽峠・一ツ森・ニツ森登山道・奥赤石川林道は白神ラインとニツ森線の閉鎖により、今年度は設置していない。）</p> <p>◆調査期間 ・令和5年4月14日～令和5年11月22日 （※調査地点によってカメラ設置期間は異なる）</p> <p>◆使用機器 ・TREL10J-D（株GISupply） ・TREL18J-D（株GISupply）</p> <p>◆集計方法 撮影された全ての画像について、写真解析（動物種名の同定及び撮影頭数）を行った。 また、設置日数と撮影回数や撮影頭数から一定日数あたりの撮影個体数を算出して比較を行った。設置期間100日（CN：カメラナイト：カメラ1台を1晩かけた場合を1CNと定義したもの）あたりの延べ撮影個体数を主な哺乳類種を対象に算出した。核心地域内の9台と緩衝地域・周辺地域の6台の計15台のカメラを各1地点とし、撮影回数と撮影個体数のそれぞれについて計算した。</p>				
結果概要（スペースに収まるように入力してください）								
<p>■種類ごとの結果 哺乳類は15種（ネズミ類及び不明種を除いた数）273頭が撮影された（表1）。このうち、白神山地での個体数増加が懸念されている種としてニホンジカ（2頭）とハクビシン（4頭）が撮影された。なおイノシシ及びアライグマの撮影はなかった。 最も撮影個体数が多かった種は、順に①ニホンガル（101頭）、②ニホンカモシカ（33頭）、③テン（28頭）であった。</p> <p>■調査地点ごとの結果 中・大型哺乳類が多く撮影された地点は順に、①大川（35頭）、②高倉森入口（29頭）、③クマゲラサイト2（27頭）であった。確認種数は核心地域で10種、緩衝地域・周辺地域では15種で、撮影個体数と同様、緩衝地域・周辺地域のほうが5種多かった。なお、緩衝地域・周辺地域でのみ確認された5種の中にはニホンジカとハクビシンの外来種2種が含まれている。</p> <p>■ニホンジカ撮影状況 今年度は周辺地域で2回撮影された（表1、図2）。本調査ではこれまでに白神山地で撮影されたニホンジカは、平成26年度ニツ森気象施設で初めて確認されて以降、平成27年度1頭、平成28年度0頭、平成29年度2頭、平成30年度4頭、平成31（令和元）年度1頭、令和2年度1頭が確認されている。</p> <p>■ハクビシンの撮影状況 今年度は周辺地域で4頭が撮影された（表1、図2）。核心地域で撮影されなかったのは平成29年度ぶりであった。本調査ではこれまでに平成26年度5頭、平成27年度2頭、平成28年度16頭、平成29年度18頭、平成30年度40頭、平成31（令和元）年度5頭、令和2年度28頭、令和3年度44頭、令和4年度12頭が確認されている。</p>								
問い合わせ	環境省東北地方環境事務所西目屋自然保護官事務所 〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1 TEL:0172-85-2622 FAX:0172-85-2635 ≪原本（データ）の帰属について≫							

備考

図1. 調査地点位置図

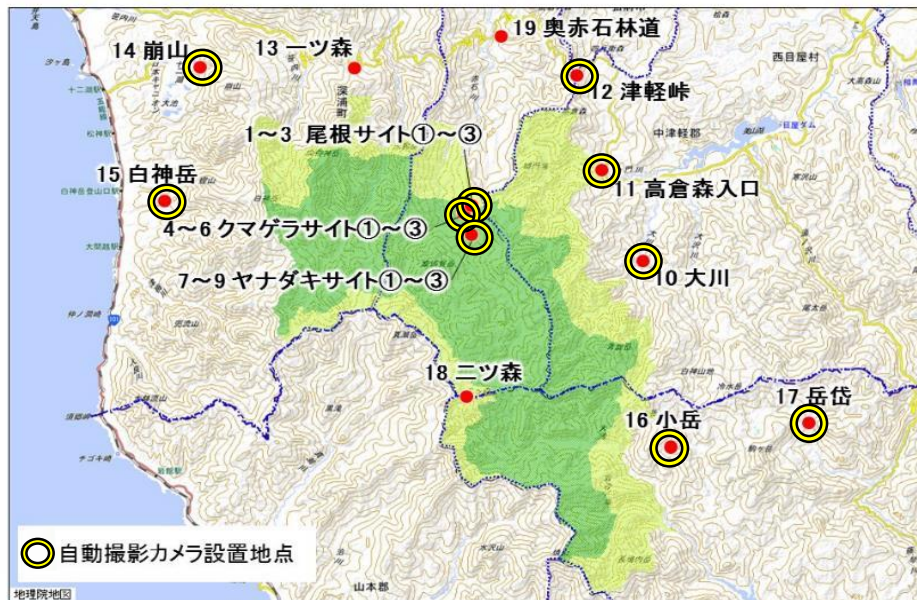


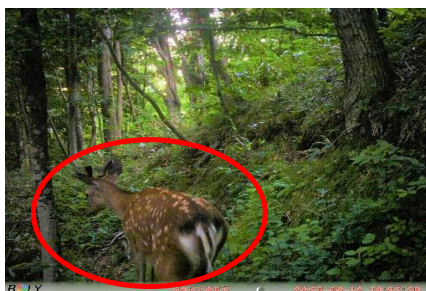
表1. 調査地点別の撮影個体数

種名	核心地域										緩衝地域・周辺地域							合計
	尾根サイト			クマゲラサイト			ヤナダキサイト			小計	大川	高倉森	崩山	白神岳	小岳	岳岱	小計	
	1	2	3	1	2	3	1	2	3									
ニホンザル	4	8	4	12	19	16	2	1	1	67	15	3		8	4	4	34	101
タヌキ				3	1		2		2	8	5		1	1		3	10	18
キツネ										0			3			1	4	4
ノネコ（イエネコ）										0						3	3	3
テン	1			1	2	2	6	4	1	17	2		5	1		3	11	28
イタチ					1	3	1	2	1	8			1				1	9
アナグマ	1								1	2	4	7				3	14	16
イタチ科				1						1						1	1	2
ツキノワグマ	3	2			3	1		1	1	11	6			1		3	10	21
ハクビシン										0	2					2	4	4
ニホンジカ										0				2			2	2
ニホンカモシカ	1			3	1	1	2	1	1	10	1		7	9	6		23	33
ニホンリス			1							1		1		3			4	5
ネズミ類				1						1		16					16	17
ヤマネ										0		1				1	2	2
ノウサギ				1						1		1	4			2	7	8
合計	10	10	5	22	27	23	13	9	8	127	35	29	21	25	10	26	146	273

※種数のカウントは重複種（種まで同定できず、既に出現している種と重複する可能性がある種）を除外した。
 ※イタチ科は大きさ（全長 20cm 程度）からテン、イタチとは異なり、イヌズナまたはオコジョの可能性が考えられる。

図2. 白神山地での個体数増加が懸念される哺乳類の撮影例

1. ニホンジカ（オス）



No.15 白神岳 2023/6/12 19:07

2. ハクビシン（性別不明）



No.17 岳岱 2023/7/9 23:17

備考

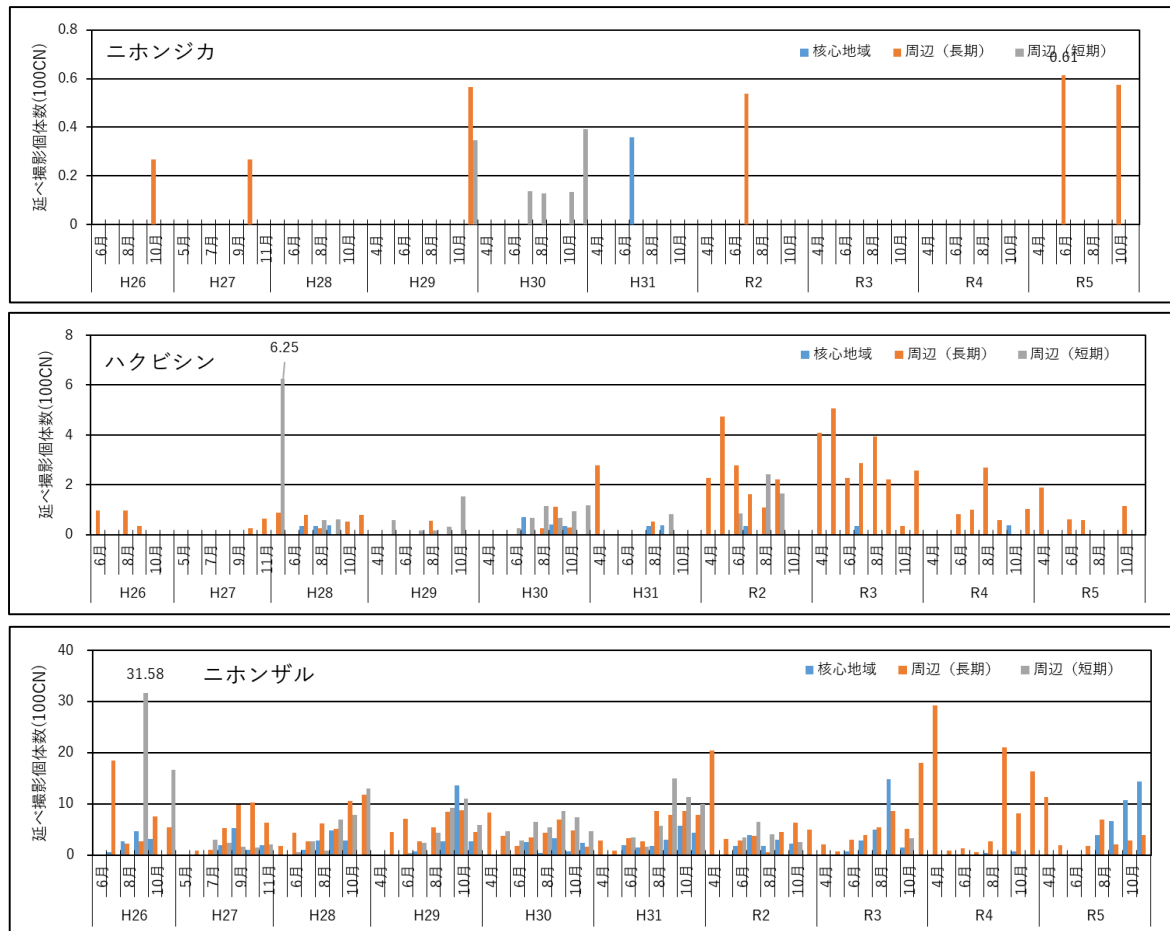
■経年推移の比較

・ニホンシカは今年度調査では周辺地域で2回撮影された。本種は平成26年度から周辺地域で疎らに撮影しており、平成31年度には核心地域でも少数が撮影されている。経年的に撮影頻度は高くなく確認されるシカはオス個体ではあるが、シカの高密度化による高い採食圧は希少植物の消失や植生衰退などの危険性があるため、メス個体や幼齢個体の出現状況など注視していく必要がある。

・ハクビシンは今年度調査では周辺地域で4頭が撮影された。継続的に確認されているものの各年の撮影数にはばらつきが見られている。これは本種が営巣できる樹洞のある樹木など、営巣環境の有無に影響されていると考えられる。

・ニホンザルは核心地域から周辺地域において経年的に多数確認されている。本年度はこれまでと比べて8月～10月に核心地域で多く確認された。本種をはじめとする多くの哺乳類は山地を主な生息場として利用することが知られており、核心地域から周辺地域にかけて同様に見られることは、白神山地における環境の連続性、もしくは同質性を示唆するものと考えられる。ニホンザルは一般的にブナや液果類など各種餌資源の各年の結実量によって活動量やエリアに変化が生じるため、今後も出現傾向と各年の状況を注視していく必要がある

図2. エリア別の月別延べ撮影個体数の経年推移



- モニタリングサイト・・・核心地域3サイト（尾根・クマゲラ・ヤナダキ）
- 周辺（長期）・・・・・・6年以上調査を実施した箇所
- 周辺（短期）・・・・・・1～5年調査を実施した箇所

【令和6年度実施状況】

《設置場所》

今年度は核心地域9地点、周辺地域7地点の計16地点で例年と同じ場所でカメラを設置した。なお令和5年度に引き続き、林道閉鎖のため、一ツ森・二ツ森登山道・奥赤石川林道の計3地点は設置できていない。

《設置期間》

●核心地域

8月2日に設置、11月3日に撤収。

●緩衝地域・周辺地域

4月～5月にかけて設置し、11月に撤収。なお岳岱は法面工事の関係で9月下旬からの設置。

《結果（一部）》

核心地域のデータ分析は完了しており、ヤナダキサイト3においてハクビシンが1回撮影されていた。